

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信

2021.9

Vol. 107

●編集・発行／総合東京病院

医療連携支援センター 地域連携室 TEL:03-3387-5444

特集

下肢静脈瘤にまつわる大きな誤解



心臓血管外科

伊藤 卓也

下肢静脈瘤外来に来られる患者さんの多くが、「血管の病気」というだけで不安を持たれている印象があります。今回は下肢静脈瘤にまつわる誤解についてお話しします。

下肢静脈瘤とは？

下肢静脈瘤は、下肢の表在静脈に存在する逆流防止弁が壊れることで発症します。足の静脈は血液を心臓まで戻すための通り道ですが、立った状態であれば足に存在する血液が1m近くの高さにある心臓に戻るのにはなかなか困難です。いくら血液を上を送り出しても、重力の影響で再び下に落ちてしまうからです。これを防ぐため、足の静脈には逆流防止弁が存在し、一度心臓側へ押し出さ

れた血液が再び下に戻らず、常に心臓の方へのみ流れるようになっていきます（図1）。

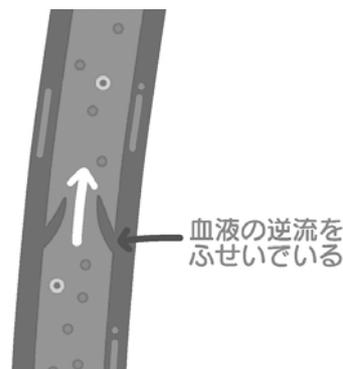


図1 下肢静脈の逆流防止弁

下肢の静脈は、比較的皮膚に近い位置を通る表在静脈と、表面からは見えない深い部分を通る深部静脈とに分かれます。表在静脈は要所要所で深部静脈と合流しますが、表在静脈と深部静脈との合流部にも逆流防止弁が存在し、合流部からの血液逆流が阻止されています。下肢静脈瘤の多くが、この表在静脈と深部静脈の合流部に存在する逆流防止弁が壊れて発症します。深部静脈から表在静脈に血液の逆流が起こり、最終的に表在静脈が拡張・蛇行して下肢静脈瘤となります（図2・図3）。

寄附金のお願い

～新型コロナウイルスから患者さんを守るために～

寄附金は、病院の施設や環境の整備、新しい知識や技術などの研究開発、医療スタッフ育成のための経費に活用させていただきます。皆さまからのご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問合せ

総合東京病院 寄附受付係

TEL: 0570-00-3387 メールアドレス tokyo-hp.kifu@mt.strins.or.jp

詳細はこちら



特集 下肢静脈瘤にまつわる大きな誤解

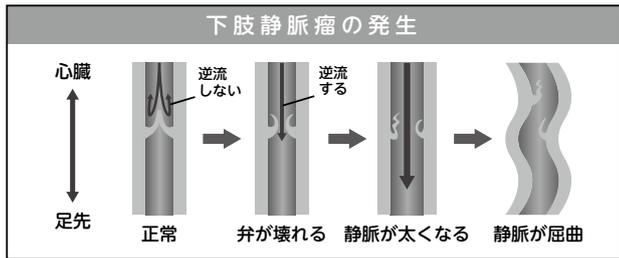


図2 下肢静脈瘤の発生 (コヴィディエンより画像提供)

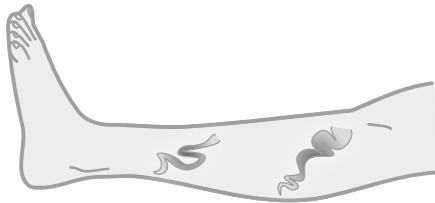


図3 下肢静脈瘤の例 (コヴィディエンより画像提供、一部改変)

下肢静脈瘤で起こる症状

下肢静脈瘤ではどのような症状が起こるのでしょうか？多いのはむくみ、こむら返り、足のだるさ等があります。足のしびれを訴えて外来に来る患者さんもありますが、しびれはあまり下肢静脈瘤では起きません。下肢静脈瘤が更に進行すると皮膚トラブルが生じてきます。かゆみや湿疹、皮膚炎、潰瘍(図4)などが起こります。皮膚炎や潰瘍は、最初に皮膚科や形成外科を受診することが多い症状ですが、下肢静脈瘤が原因の場合、下肢静脈瘤の治療をしないとなかなか治りません。



図4 下肢静脈瘤による潰瘍

下肢静脈瘤にまつわる誤解

さて、ようやく本題に入ります。患者さんの不安の中で一番多いのは、「血栓ができて心臓や頭に飛んでいかないか心配」というものです。これは深部静脈血栓症、いわゆるエコノミークラス症候群と混同したものです。

先程も述べたように下肢静脈瘤ができるのは表在静脈であり、深部静脈血栓症

が起こる深部静脈とはそもそも血管が異なります。基本的に、下肢静脈瘤のせいで深部静脈血栓症の危険性が明らかに高くなるということはないですし、深部静脈血栓症を心配して予防的に下肢静脈瘤を治療することも絶対にありません。下肢静脈瘤内に血栓ができることもたまにありますが、飛んでいくほど大きな血栓となることはあまりなく、通常血栓ができた部分の皮膚が赤くなり、痛みを生じます(血栓性静脈炎といいます)。鎮痛薬の内服で多くは自然と消失します。

また「ひどくなって歩けなくなったら困る」という方もいますが、そんなこともまずありません。高度のむくみで足が重く感じる、ということはありませんが、歩けなくなるような病気ではありません。

つまり下肢静脈瘤は、何かを予防するために治療するものではなく、先に挙げたような下肢静脈瘤による症状で患者さん自身がお困りの時に初めて治療が必要、と考えていただければよいと思います。基本的には良性疾患(放っておいても命に関わることはない)ですので、過度な不安を抱く必要はありません。しかしむくみやこむら返りも十分患者さんにとっては辛い症状ですので、そのような症状がある場合には、過度な心配をすることなく気軽に下肢静脈瘤外来を受診していただければ幸いです。

足のむくみ、だるさが気になったら…
下肢静脈瘤外来をご受診ください



外来日:月・火・水・土 午前(火は午前・午後)
ご予約:0570-00-3387 (予約・相談ダイヤル)